

(問二)

- (1) 荒廃
- (2) 応酬
- (3) 兆候
- (4) 妥協 カカ
- (5) 極致

(問二)

(徴)

芸術家が本来人間には扱いかねるはずの人間の心を
 芸術の中で表現することで、真の自分を見失い、
 自己の実人生を感じる事ができなくなるということ。

(問三)

芸術家は仮構の世界を作り出すことに日常的に専
 念しているため、実人生と仮構の世界との境目があいま
 いになるという危険にさらされざるを得ないということ。

(問四)

俳優と軍人は第三者に与える見た目の印象を求めるの
 で、衣装や軍服といった各々の役割らしさを具現化する
 ものを重視し、その思惑が成功したことが示されると、
 喜びを見出すものであるということ。

(問五)

の	で	ま	扱	ま	芸
自	充	う	り	う	術
己	足	の	処	と	と
と	す	で	で	、	い
人	る	、	あ	人	う
生	生	見	る	間	仮
を	の	ら	絶	ら	構
取	世	れ	え	し	の
り	界	る	間	い	世
戻	に	こ	な	心	界
さ	戻	と	い	や	に
ね	る	な	官	芸	い
ほ	こ	し	能	術	る
な	と	に	性	家	こ
ら	に	存	を	と	と
な	よ	在	見	し	に
い	り	す	失	て	慣
か	、	る	つ	最	れ
ら	本	だ	て	後	て
。	当	け	し	の	し

10

20

(問一)

と	え	庵
え	'	の
た	昔	側
の	の	に
ぞ	人	頼
あ	が	り
ろ	自	た
う	分	さ
と	の	そ
思	命	う
わ	の	に
れ	は	生
た	か	え
こ	た	て
と	さ	い
	を	る
	宿	宿
	木	木
	に	を
	た	見

10

20

(問二)

集	前	あ
の	に	て
歌	姿	に
に	を	し
詠	現	て
み	し	い
込	て	た
ま	く	人
れ	れ	は
た	る	来
場	と	な
面	い	い
と	う	が
重	状	月
な	況	ほ
つ	が	必
た	'	ず
か	後	自
ら	拾	分
	遺	の

10

20

(問三)

C	
もし月を見ることが なからなれば	
D	
しやじやとくに趣がある	

〔問一〕

a	賈人(子)
b	賈人(子)

〔問二〕

自分の父には新しい服を着せ、そして自分は破れた服を着て、凍えて憐れられる状況を作った。

〔問三〕

父親に刑罰を与えると思わせかけ、子の様子を観察し、子の父に対する思いの深さを確かめようとする意図。

〔問四〕

父がむごい刑を受けそうになっても、ただ黙って見ている子を、眞知事は親不孝と見なし扶養義務を果すといないと判断したから。